

各行事は都合により変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。
最新の情報は、キリスト教文化センターホームページまたは掲示板にてご確認ください。

お知らせ

○チャペル・コンサート

「バロック音楽への招待状

～歌と古楽器による賛美のひとつとき～

演奏者：進元一美（ソプラノ）

井上 玲（リコーダー）

吉田一美（ヴィオラ・ダ・ガンバ）

加藤真子（オルガン）

日 時：11月4日（土）13：00開演

会 場：同志社京田辺会堂言館（KOTOBA-KAN）礼拝堂

事前申込不要、入場無料

○「烏丸ウィーク」チャペル・アワー

今年も「出張チャペル・アワー」を開催します。
秋学期はいつものチャペル・アワーを今出川校地・烏丸キャンパスでランチタイムに行います。
普段はなかなか参加できない皆さん、ぜひこの機会にご参加ください。

11月7日（火）

グローバル地域文化学部准教授 王 柳蘭

11月8日（水）

グローバル地域文化学部准教授 二村 太郎

11月10日（金）

日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根 信彦

時間：12：35～13：00（3日間すべて）

会場：烏丸キャンパス 志高館教室（未定）

※時間と場所にご注意ください。

※烏丸ウィーク期間中、今出川キャンパスでのチャペル・アワーは行いません。

○Doshisha Spirit Week 2023 秋

11月20日（月）～11月25日（土）

同志社大学の歴史や建学の精神、新島襄についての講演など、同志社を学び、知るための企画を行います。創立の志に触れる1週間です。それぞれの会場を含め詳細につきましては、ホームページ・掲示板をご確認ください。

○聖書に親しむプログラム

一人ひとりが聖書と向き合い、ディスカッションすることを通じて聖書に親しむための集いです。大学に入学して初めて聖書を手に取った、という方も、もちろん大歓迎。開講期間中に行っています。

今出川校地

「聖書を学ぶ会」1カ月に1回程度

「聖書を味わおう」毎週金曜日 13：15～14：00

クラーク記念館ラウンジ（クラーク記念館1階）

京田辺校地

「聖書研究会」毎月第2・第4火曜日 10：45～12：00

「スタートアップ：聖書の扉」毎週金曜日 13：15～14：00

同志社京田辺会堂 光館（HIKARI-KAN）チャプレン室

○同志社京田辺会堂光館（HIKARI-KAN）ラウンジ展示

・第17期展テーマ

「同志社大学のキリスト教

―同志社に蒔かれた種―

会期：2023年4月3日（月）～2023年9月下旬

9：00～17：00

・第18期展テーマ

「新島襄と同志社

―建学の精神・創立者の夢―

会期：2023年10月2日（月）～2024年3月下旬

（予定）

*土・日・祝日、大学休校期間を除く。
新島襄や同志社の歴史と建学の精神に関する展示を行っており、半期ごとに展示資料を入れ替えています。どなたでも自由にご覧になれますので、ぜひお越しください。

○チャプレンとの面談

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています（教会のみならず、学校、病院などで働きを担う牧師をチャプレンと呼びます）。

今出川校地・京田辺校地

随時受付：越川 弘英、森田 喜基

今出川校地

金曜日 14：00～15：00 仲程 愛美

京田辺校地

金曜日 14：00～15：00 川江 亜希子

○メディテーション・アワー

オルガニストによるオルガン演奏を聴きながら心静かなひとときをお過ごしください。

今出川校地 9月25日（月）～12月21日（木）までの月～木 12：40～13：00

会場：クラーク・チャペル

※図書館建替工事の状況に応じて、変更となる可能性があります。

京田辺校地 9月25日（月）～12月21日（木）までの月・木 12：40～13：00

会場：同志社京田辺会堂

言館（KOTOBA-KAN）礼拝堂



チャペル・アワー案内

2023年9月21日

No.261

同志社大学

キリスト教文化センター

京田辺

0774-65-7370

今出川

075-251-3320

本センター
ホームページ
<https://www.christian-center.jp/>



「秋、柿、タヌキ」

切り絵 中谷隆志

秋学期チャペル・アワー統一テーマ

「あなたに平和、あなたの家に平和、
あなたのものですべてに平和がありますように。」
（サムエル記上 25章6節より）

中東では「平和」を意味する言葉、ヘブライ語の「シャローム」、アラビア語の「アッサラーム」等が挨拶の言葉として使われてきました。これは「こんにちは」から「さようなら」まで、目の前の相手、その家族、共同体、国家まで幅広くカバーする言葉です。「シャローム」は、それは戦争がない状態以上に、物事が本来あるべき姿に回復することを指します。すなわち神の被造物である全ての人の尊厳が認められている状態です。イエス・キリストも今学期の統一テーマの箇所のように、「平和があるように」と挨拶をするよう、勧めています。

世界は今も分断されています。ウクライナでの戦争、アフリカやアジアでも、また私たちの身近なところで。出会い方が違えば、友達だったかもしれない人々が、銃を取り殺しあう、いがみ合う現実。もしそこに人と人との関わりがあり、相手の幸せを願う挨拶があったならば、世界は違ったのだと思ってしまう。勿論、人の関係性は脆く、すぐ破綻してしまうのが、人の現実です。しかし日々「あなたに平和」の気持ちで挨拶することは、平和を作り出す小さな一歩なのかもしれません。

（キリスト教文化センター准教授 森田 喜基）

チャペル・アワー

秋学期・9月26日(火)～2024年1月26日(金)

◎チャペル・アワーは礼拝堂で行うとともに、各校地隔週で録画によるオンライン配信をする予定です。当日の奨励題や配信のスケジュールなど詳細につきましては、ホームページや学内掲示板をご覧ください。

◎チャペル・アワーに参加の方は、会場入口に掲示する注意事項を遵守してください。
◎音声や文字などによるサポートが必要な方は、実施日の2週間前までに各校地の事務室までお知らせてください。

スケジュール(秋学期前半)

京田辺校地

月/日	奨励者
9/26	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺圭一郎
10/3	日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原政輝
10/10	日本キリスト教団能登川教会牧師 谷香澄
10/17	音楽礼拝※ シンガー・ソングライター 福原タカヨシ
10/24	日本キリスト教団京都葵教会牧師 内山友也
10/31	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺圭一郎
11/7	日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原政輝
11/14	日本キリスト教団能登川教会牧師 谷香澄

水曜ランチャタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN)礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/27	キリスト教文化センター准教授 森田喜基
10/4	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程愛美
10/11	女優・作家(福音落語・古典落語) 露のききょう
10/18	日本キリスト教団岡本教会牧師 栗原宏介
10/25	スポーツ健康科学部准教授 新井彩
11/1	音楽礼拝 ゴスペルシンガー 久野久美子
11/8	頌栄保育学院理事長・院長 相澤弘典
11/15	同志社国際学院初等部教諭 青田忍

金曜ランチャタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN)礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/29	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下壮起
10/6	日本キリスト教団河内天美教会牧師 今井このみ
10/13	日本キリスト教団浪花教会牧師 川江亜希子
10/20	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡恵生
10/27	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下壮起
11/10	日本キリスト教団河内天美教会牧師 今井このみ
11/17	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下壮起



今出川校地

火曜チャペル・アワー

神学館礼拝堂 毎火曜日17時30分～18時10分

月/日	奨励者
9/26	キリスト教文化センター准教授 森田喜基
10/3	同志社女子中学校・高等学校聖書科教諭 生田香緒里
10/10	神学研究科生 椿克也
10/17	平安女学院中学校高等学校チャプレン 古本みさ
10/24	日本キリスト教団堅田教会牧師 東昌吾
10/31	スチューデントアドバイザー・アシスタント チーフコーディネーター 土橋恵美子
11/7	烏丸ウィーク※ グローバル地域文化学部准教授 王柳蘭
11/14	社会学部教授 伊藤高史

水曜チャペル・アワー

クラーク・チャペル 毎水曜日10時45分～11時30分

月/日	奨励者
9/27	キリスト教文化センター教授 越川弘英
10/4	日本語・日本文化教育センター教授 平弥悠紀
10/11	元近江兄弟社高等学校聖書科教諭 中島淳
10/18	日本キリスト教団東灘教会牧師 望月修治
10/25	韓国メソジスト教団派遣宣教師 朴シネ
11/1	神学部教授 勝又悦子
11/8	烏丸ウィーク※ グローバル地域文化学部准教授 二村太郎
11/15	日本キリスト教団賀茂教会牧師 藤浪敦子

金曜ランチャタイム・チャペル・アワー

神学館礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
9/29	日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根信彦
10/6	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原純
10/13	神学部准教授 中野泰治
10/20	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程愛美
10/27	日本キリスト教団牧師(京都教区巡回教師) 堀江有里
11/10	烏丸ウィーク※ 日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根信彦
11/17	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原純

エッセイ

『弱さを愛する?』

村山盛葦

使徒パウロは「コリントの信徒への手紙 二」において、自分の弱さを隠すことなく率直に認め、むしろ、それを誇りとすることを述べています。その理由は、弱さにこそキリストの力が宿っているから。そして、その事態を喜びたいと訴えています。しかし私たちは弱さではなく、強さを求めて日々歩んでいることが多いのではないのでしょうか。学生として社会人として、「もっと強くなれ!」(学力や業績を上げなければならない)と周りに直接・間接的にプレッシャーを受けながら、また同時に、それに懸命に応えようとする自分に気づきます。目標を立て、それを目指して努力することは素晴らしいことです。このプロセスを通して様々な学びや貴重な経験を得ることができ、力がついていきます。そして、このことは自信にもつながります。以前より強い自分を得ると、将来の可能性が高まり、自己実現や社会への貢献をいっそう期待することができます。使徒パウロもおそらく私たちと同様に、目標を立て奮闘努力した人物だと思います。彼は、とても困難な状況の中でキリストの福音を宣べ伝えた強い人でありました。しかし、冒頭の箇所にあるとおり、彼自身の弱さを吐露しそれを誇りにしているのです。ここには、人間の、そして人生の深い意味が隠されていると思います。

オランダのカトリック司祭ナウエンは人の弱さについて示唆に富む言葉を残しています。

「人の一生は尊いものです。それがダイヤモンドのように不変のものだからではなく、小鳥のように傷つきやすいものだからです。人生を慈しむことは、配慮、関心、導き、助けを必要とする、そのような弱さを愛することなのです。生まれたばかりの赤ん坊と死に瀕した老人とが、私たちに人生の尊さを思い起こさせてくれます。私たちが力に溢れ、幸運に恵まれ、人々にもはやされている時、人生の尊さと傷つきやすさを忘れないようにしましょう」(ヘンリ・J・M・ナウエン『今日のパン、明日の糧』河田正雄訳、聖公会出版、改訂版二〇一一年、三五頁)。

ナウエンは人生の尊さは弱さにあり、その弱さを愛することであると述べています。これは敗北主義や他人への依存を奨励しているではありません。ましてや、強くなるための奮闘努力を否定しているのでもありません。弱いけれども人生をこれから歩いていく赤ん坊、いまや弱さしか持ち合わせていない、人生の歩みを終えようとしている老人。この両者は、実は私たち一人一人なのではないでしょうか。「わたしは弱いときにこそ強いからです」(コリントの使徒への手紙二 一 二章一〇節)という使徒パウロの言葉も人生の尊さを表現しています。彼にはキリスト信仰があったので、その尊さの意味がより深く知らされていたのだと思います。

(むらやま・もりよし 神学部教授)

※京田辺校地の10/17(火)の音楽礼拝は、青空チャペルで行います。
※今出川校地の11/7(火)、11/8(水)、11/10(金)のチャペル・アワーは12時35分から、烏丸キャンパスで行います。時間と場所にご注意ください。(詳細は裏面「烏丸ウィーク」チャペル・アワーをご覧ください。)